



平成 23・24 年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業

新学習指導要領の趣旨を具体化し深化充実するための 指導方法の工夫改善に関する研究

～「分かる」「できる」「関わり合う」保健体育学習～

大館市立東中学校 教諭 田村 新一

1 研究主題

学習内容の系統性を踏まえ、確かな学力を身に付けさせる指導方法の工夫・改善
～「分かる」「できる」「関わり合う」保健体育学習～

2 研究主題設定の理由

本校では、研究主題を「確かな学力を身に付け、互いに高め合う生徒の育成～思いや考えを伝え合う活動の工夫を通して～」とし、主体的に活動できる生徒の育成を目指してきている。保健体育科における生徒の実態については、事前のアンケート結果で全校の9割以上が保健体育の学習が好きだと答えていることなどから、意欲的に取り組む様子が数値上確認できる。しかし「進んで意見を述べたり、やり方を説明したりするのは苦手」という回答から、習得した知識・技能やそれらを活用して思考・判断したことを表現する活動を苦手としていることが分かる。また「うまくならないから苦手」という回答からは、技能を高めるためのポイントを理解しきれていないまま活動している様子が確認できる。

保健体育科としては、こうした実態を基に、生徒が習得した知識・技能や自己の思いや考えを言語活動や身体活動として表現し、お互いのよさに気づきながら、共に高め合う姿を目指したいと考えた。そこで、本主題の下に授業改善に取り組むことにした。

そのために、運動や健康の系統性を踏まえながら学習内容を明確にしたり、単元の指導計画を工夫・改善したりすることで、基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、「分かる」「できる」を授業の中で実現させていきたい。また、本校研究主題にもある、思いや考えを伝え合う場面を、互いに「関わり合う」活動として設定し、習得した知識・技能を活用させることで思考力・判断力・表現力等を育てていきたい。こうした、指導方法の工夫・改善を通して、健康を保持増進し、生涯にわたってスポーツに親しむ基礎を培うことを目指した。

3 2年間の主な取組の経過

23 年 度	○研究計画の作成	○本校生徒意識調査	○新体力テストの実施
	○県主催の柔道に関わる研修会への参加	○小学校、高等学校との授業交流	
	○「武道（柔道）」「陸上競技」「傷害の防止」の授業公開と単元構造図の作成		
24 年 度	○研究計画の再考	○本校生徒意識調査	○新体力テストの実施
	○県主催のダンスに関わる研修会への参加	○単元構造図の作成	
	○「武道（柔道）」「ダンス」「心身の機能の発達と心の健康」の授業公開		
	○大館市教育研究実践発表会での発表	○秋田県教育研究発表会での発表	

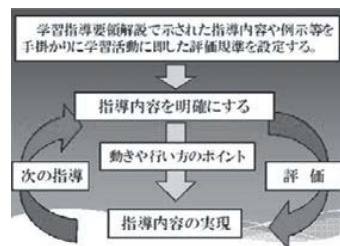
4 具体的な研究内容

(1) 指導内容を踏まえた「指導と評価の計画表」と「単元構造図」の作成

- ① 指導と評価の機会や評価期間・評価方法を明確化した「単元構造図」を作成した。
- ② 単元計画内に指導内容と評価規準を配置した「指導と評価の計画表」を作成した。

(2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得とその活用

- ① 知識・技能を習得する活動時間や運動量を確保するために学習ルールを確立した。
- ② 学習指導要領の例示の内容を具現化するために評価規準に合わせて指導内容を明確にして授業を展開した。
- ③ 授業時の発問や生徒相互の意見交換を重視したり掲示環境や学習カードを活用したりして知識の定着に努めた。
- ④ 知識の定着と併せて技能における例示の内容を基に習得すべき動きや行い方の原則を分析して授業を展開した。
- ⑤ 基礎的・基本的な知識・技能を活用して思考・判断する場面を設けた授業の在り方について研究した。



(3) 保健体育学習における言語活動の充実

- ① グループやペアによる仲間の学習を援助したり、動きのポイントを見付けたりする態度面に関する言語活動の充実を図った。また思考・判断について評価する授業を設定し、習得した知識・技能を活用する場面を設け言語活動の充実を図った。
- ② 保健分野における写真や映像による事例を基に、生徒同士のディスカッションやブレインストーミングを用いて、習得した知識の活用を図る場面を設けた。

5 研究の成果と今後に向けて

(1) 研究の成果

活動時間を確保するために授業前の準備や活動を決めたことで、分担した役割を効率的に果たしたり、生徒の行動スピードが向上したりするなど、時間の確保とともに、主体的に学習に取り組む態度の面でも効果が見られた。

指導と評価の機会や評価期間・評価方法を明確化した「単元構造図」の作成と単元計画内に指導内容と評価規準を配列した「指導と評価の計画表」を作成したことで、単元の全体像を捉えやすくなり、毎時間の指導内容と評価規準も明確にできた。

また、学習指導要領解説の例示を具現化するために評価規準と照らし合わせながら指導内容を明確にすることで、学習カードへの記載内容や実際の生徒の動きにその効果が表れた。結果として単元終了時のアンケートには、ダンスでは、「楽しかった」「とても楽しかった」と答えた割合が98%にのぼり、柔道では「できるようになり楽しかった」「これからも続けたい」という感想が寄せられた。

(2) 今後に向けて

今後は、2年間研究してきたことを広く伝えつつも、これまでの取組を継続し、さらに深めていくことができるよう努力していきたいと考えている。